
80巻1号

2025年1月1日

YAA 天文会報

(1~3月号)

803号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



横浜市内から見た紫金山アトラス彗星

撮影：山形幹夫

観望ガイド

正木

2025年（令和7年）を迎えました。昨年は元日に能登半島地震が発生し、その後も各地で災害が続く一年となりましたが、今年は穏やかな一年になるよう祈ります。

2024年は、天文会報が通算800号発行という区切りの年となりました。ここまで継続できているのもひとえに会員各位のご支援の賜物です。今年も引き続きYAAへのご協力をお願いいたします。

去年は、紫金山・アトラス彗星が主役の一年でしたが、今年も、9月8日未明に全国で皆既月食を見ることができます。日本で見ることのできる皆既月食は、2022年11月の天王星食と同時に起きた皆既月食以来です。三大流星群は、しぶんぎ座流星群が年明け1月4日未明に条件良く、8月のペルセウス座流星群、12月のふたご座流星群は月明かりに邪魔されてしまいます。

1月の天象は、しぶんぎ座流星群が4日0時に極大となります。月はすでに沈んでいるので観測条件は良く、またこの流星群は活動のピーク時間が短いため、今年も夜中の0時から1時頃に一番多く出現し、明け方に向かって徐々に活動が収まっていくように見えると思います。金星が10日に東方最大離角（ -4.5 等）、火星は17日に衝（ふたご座・ -1.5 等）、その前の12日に地球に最接近（ -1.4 等）となります。今回は中接近です。

2月は、15日に金星が最大光輝（ -4.9 等）になり、圧倒的な明るさで夕焼け空のなかに輝いています。東方最大離角・最大光輝の話がでると、内合が近づき夕方の空から姿が無くなる寂しさを感じます。

3月は、5日の22時半ごろから月齢6の月がおうし座のプレヤデス星団の中を通過していくため、プレヤデス星団の星々を次々に隠していきます。双眼鏡を使って見るとその様子が良く見えます。14日の宵には、部分月食の状態です。

右の写真は、昨年10月13日日没後に自宅から撮った紫金山・アトラス彗星です。





私の経験中、横浜で肉眼で尾まで見える彗星が出現したのは1975年3月のウエスト彗星以来です。当時私は高校生でした。ウエスト彗星は横浜市旭区にある高校の屋上から観測した時に、東側の丘から煙のようなものが見え始めました。「こんな時間に焚火をしている人がいるぞ」と言いましたが、それは煙ではなく昇りくる彗星の尾でした。尾も大変明るく、大きく誠に見事な彗星でした。

昨年9月10月にかけて見頃となったC/2023A3 紫金山・アトラス彗星ですが、まず近日点通過前で観測に適した時期にオーストラリアへ遠征しました。9月28日に日本を出発し、10月4日帰国。今回の遠征地はケアンズから内陸へ430km程のジョージタウンです。会報782号に短く紹介している所です。（距離に誤記あり）乾期が終わりを迎えつつあり、山火事の煙やホコリの影響で期待したほど空の抜けは良くありませんでした。写真は当地で撮影。以下いずれも、
撮影地：南緯18.29° 東経143.54°
撮影日：180mmは2024年10月3日
時刻は現地時間（日本+1時間）

【写真上】尾が昇る 4:31 f=180mm

【写真下】核が昇る 5:03 f=180mm

f=180mmはISO3200, f/3.5, 20秒

時刻4:31には尾が十分昇ってきていました。約1km先の市街地に強い外灯があり写り込んでいます。49年ぶりに明るい、尾から昇って来る彗星を見ることができて大変感激しました。3日は格段に増光したようで、核の光度は1等級を超えていたと推察しています。f=50mmの画角は縦横約26×38度で、写真から尾の長さは20度程度あることが分かります。f=50mmの写真はブレの影響を画像処理で小さくしています。



【左】 10月1日 5:00 f=50mm, IS03200, f/2.8, 10秒

【中】 10月2日 5:05 f=50mm IS03200, f/2.8, 10秒

【右】 10月3日 5:01 f=50mm IS03200, f/2.8, 10秒

この彗星の観測は9月30日から10月3日まで4晩連続して行いましたが、日々尾が長くなっていく様子を感じました。写真の色味や構図が揃えられずお見苦しい状態ですが、核の位置が紙面上で揃うように比較写真を掲載しました。

近日点通過後は横浜にて表紙写真のような彗星観測を楽しみました。近所の方数名も双眼鏡やカメラを持参して彗星を探しましたが見つけれず、あそこですよと教えて差し上げました。やはり素人さんには難しかったようです。



【左写真】 2023年

10月1日5:00

f=50mm

IS03200, f/2.8

10秒 固定撮影

上記左写真のトリ

ミング無し

画角縦が 26度

【表紙写真】 2023年10月13日18:08 撮影地：横浜市西区 Nikon Z6 II f=50mm f/2.8 IS0400 2秒×5 固定撮影 横浜でも肉眼で見えて感激しました

日月星の伝承を訪ねて (82)

横山好廣

津久井の月待塔 ⑤

神奈川県の月待塔の实地確認の最終調査地、相模原市緑区・旧津久井郡（津久井方面）へ入って3年余経過した。調査完了までには、まだ時間がかかりそうだが、中間報告として大型の月待塔のレポートをしたい。

津久井方面を歩いて気付くのは、月待塔の石材のほとんどが自然石で、その塔高が1mを超える大きなものが多いことである。法量の点で何センチ以上を大型という定義はないので、現地で「大きな月待塔だ」と感じた月待塔の報告をしたい。なお、抽出の順は不同、法量は塔高×幅×奥行(cm)で表記した。

(1) 調査地 相模原市緑区三井 651 付近 古井部地区(旧津久井町)

調査年月日 2021(令和3)年10月28日

形状 自然板石 文字塔

名称 二十三夜塔

銘文 正面「廿三夜」

背面「安政五午歳正月日(1858)」「村中」

法量 塔身 189×62×12

台石 21×106×47



スマートで、堂々とした容姿である。左右の石塔(不動尊・道祖神など)と比べるとその巨大さがより引き立つ。丁度、集落の三叉路の処に建っている。

廿三夜待についての話は聞けなかった。かなり以前に衰退したらしい。此処は村人の憩いの場であったようで、団子などのお供え物をしたりして寄り集まる場所であったそう。正月には、此処でどんど焼きがここで行われていたが、今は近くの八幡社でどんど焼きを行っているとのことだ(91歳の男性)。

このように大きな二十三夜塔を建てようとした動機は何であったのか。その大きさから二十三夜への篤い信仰心は伝わってくる。しかし、二十三夜塔にかかる費用や運搬などを考えると大変な事業であったと推察する。本碑は古伊部地区にこのような困難さに負けない団結心・経済力があつたことを証している。

(2)調査地 相模原市緑区青野原 2967 長野地区 諏訪神社 (旧津久井町)

調査年月日 2023(令和5)年7月3日

形状 自然板石 文字塔

名称 二十三夜塔

銘文 正面「廿三夜」、
右側面「天保十一年四月吉
日(1840)」「當村中」

法量 塔身 185×99×50

台石 23×160×117



見るからにして堂々とした風、貫録有。高さは台石含めると 200 cm を超え、幅と厚みも豊かで、泰然とした風格を醸し出している。青野原方面は月待塔に限らず巨大な石造物が多い。道志川から巨石が採れ、山中にも巨石の産地があるようで、大きな石材が近くで採れることが、巨大な石造物を産んだ理由の一つであろうか。

重機の無い時代、この巨大な二十三夜塔をどのようにして運んだのか。興味深い。近くの宝鏡寺の門前には、台石含めて 300 cm を超える巨大な萬霊塔(安永 7 年-1778-) が建つ。この石の運搬に関する言い伝えが『つくい町の古道』に記されているので参考に上げる。「……これを搬出するため村内善男善女は勿論のこと、長野、伏馬田両村の力を借りたが進捗せず、最後に婦人の協力を得た。すると予想外に進捗し、立派に建立できたという話である。……」。二村の村人による合力で搬出することが出来たということである。特に婦人の活躍を取り上げているところが面白い。運搬の具体的な方法は伝わっていないのが残念。

なお、伏馬田(ふすまた)は、道志川の対岸の村で、旧・藤野町になる。

二十三夜塔の造立年について、少し考えたい。天保十一年は天保の飢饉から 4 年ほど経過した頃である。天保の飢饉では津久井方面でも大きな被害を蒙り、食糧難になり、生活に困窮したようだ(参考・『津久井郡勢誌』)。それから 4 年ほどで村々の生活状態、食糧事情がどれだけ回復したのであろうか。大きな回復は望めないような気がする。このような状況下で、巨大な二十三夜塔を建立することは大変難儀であったに違いない。しかしながら、二十三夜に豊作を願い、生活の立て直しを願う気持ちが勝っていたのかも知れない。ここに、日本古来の農業神としての月を垣間見る思いがする。(つづく)

天象

相原 榮

1月

水星: 明け方の東南東天、上旬は観望好期 $-0.4\sim-0.9$ 等へびつかい→いて→やぎ座
金星: 夕方の西南西天で高度を上げる、観望好期 $-4.4\sim-4.7$ 等みずがめ→うお座
火星: 夜半に南中、観望好期 $-1.2\sim-1.5\sim-1.1$ 等かに→ふたご座
木星: 20時過ぎ南中、上旬は観望好期 $-2.7\sim-2.5$ 等おうし座
土星: 宵の南西天 $+1.1$ 等みずがめ座

3日 夕方の西南西天で月と金星が接近(双眼鏡視野内)

4日 夕方の西南西天で月と土星が接近(双眼鏡視野内)
00h しぶんぎ座流星群が極大の頃(月没後で条件最良)

5日 11h33m 小寒

7日 08h56m 半月(上弦)

14日 07h27m 満月

明け方の空で月と火星・ポルックスが集合

18日 宵の空で金星と土星が接近

20日 05h00m 大寒

22日 05h31m 半月(下弦)

29日 21h36m 新月

2月

水星: 中旬以降夕方の西天、下旬は観望好期 $-0.9\sim-1.5\sim-1.0$ 等やぎ→みずがめ→うお座
金星: 夕方の西天(宵の明星)、観望好期 $-4.7\sim-4.9\sim-4.8$ 等うお座
火星: 夜半前に南中、上旬は観望好期 $-1.1\sim-0.3$ 等ふたご座
木星: 宵に南中 $-2.5\sim-2.3$ 等おうし座
土星: 夕方の南西天低空 $+1.1$ 等みずがめ座

1日 宵の西天で月と土星が接近

3日 23h10m 立春

5日 17h02m 半月(上弦)

6日 19h 宵に天頂付近で月とプレアデス星団(M45)が接近

10日 未明に月と火星が接近(ふたご座)

12日 22h53m 満月

18日 19h07m 雨水

21日 02h33m 半月(下弦)

28日 09h45m 新月

3月

水星: 夕方の西天、前半は観望好期 $-1.1\sim+5.7\sim+3.3$ 等うお座
金星: 月初は夕方の西北西天、その後高度を下げる $-4.8\sim-4.1$ 等うお座
火星: 宵に南中 $-0.3\sim+0.4$ 等ふたご座
木星: 宵の西天、夜半に沈む $-2.3\sim-2.1$ 等おうし座
土星: 太陽に近く観望困難 $+1.1\sim+1.2$ 等みずがめ座

1日 夕方の西天低空で月と水星が接近

5日 17h07m 啓蟄

22時過ぎ 西天低空でプレアデス星団の食

7日 01h32m 半月(上弦)

9日 宵の空で月と火星が接近(ふたご座)

14日 15h55m 満月(南北アメリカなどで皆既月食)

20日 18h01m 春分

22日 20h29m 半月(下弦)

25日 おとめ座流星群(活動期間 1/25~4/15)が極大の頃

29日 19h58m 新月(北アメリカ北東部・ヨーロッパ等で部分日食)31日 07h27m 新月